



**MORIOKA**  
ROTARY CLUB WEEKLY

第35回例会(3月28日)  
平成26年4月4日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10  
川徳デパート内  
例会場 同上 TEL(651)1111(代)  
FAX(653)5622  
例会日 毎週全曜日12時30分～

会長 平井 滋  
幹事 平野 佳則  
会報 金子 真也  
クラブ直通電話 TEL(653)5682

Engage Rotary, Change Lives. "ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を"…… Ron D. Burton



ゲスト卓話

## 「石川啄木と盛岡」

石川啄木記念館 館長  
森 義真 様

石川啄木の生涯

●近代文学研究家。現在、石川啄木記念館館長、国際啄木学会理事・事務局長、宮沢賢治学会イーハトーブセンター理事。  
●1953(昭和28)年盛岡市生まれ。一橋大学社会学部を卒業。●著書：『盛岡中学校時代の石川啄木』(緑の苗豆本の会、2000年)、『啄木の親友 小林茂雄』(盛岡出版コミュニティ、2012年、平成24年度岩手県芸術選奨受賞)、『啄木 ふるさと人との交わり』(盛岡出版コミュニティ、2014年) ●分担執筆：『啄木からの手紙』関西啄木懇話会編(和泉書院、1992年)、『石川啄木事典』国際啄木学会編(おうふう、2001年)など。論文、講演多数。

盛岡の先人である石川啄木を取り上げる。後に「啄木」となる石川一(はじめ)が、盛岡で暮らしたのは8年と4ヶ月。5歳から始まる学生時代の7年7ヶ月と新婚時代の9ヶ月で、26年2ヶ月という短い生涯の、約三分の一にあたる。

「石川啄木と盛岡」という捉え方で、三つ側面から述べたい。

一つ目は、「啄木にとっての盛岡」は、どういう場所であったのか、という位置づけ。二つ目は、「盛岡における啄木の居住地」として、啄木が住んだ盛岡市内9か所を別表として掲げる。三つ目には、啄木の名声を高めた歌集『一握の砂』における、盛岡時代を回想した短歌についてである。

まず「啄木にとっての盛岡」だが、新婚時代を除けば、「宮沢賢治にとっての盛岡」という捉え方でも、全く同じことが言える。

啄木の生まれた日戸、育った浜民を含めた玉山村が、8年ほど前に盛岡市と合併したので、今では「盛岡で生まれ育った啄木」となるわけだが、ここでは、合併前をイメージしていただきたい。盛岡から約25km北にある浜民から啄木が、約35km南にある花巻から宮沢賢治が、ともに盛岡に来て青春時代を過ごした。

二人にとっての「青春のマチ・盛岡」は、「人間形成の地」であり、「学業形成の地」でもあった。また、ともに「文学が芽生えた地」であり、初恋を知り、青春を謳歌した地、そして100年以上経ってもまだ色褪せない思想を形成した場所なのである。

さらには、啄木にとっては、妻節子との新婚時代を過ごし、文芸雑誌「小天地」を発行したのもこの盛岡である。

昔の呉服町にあるもりおか啄木賢治青春館の建物は、明治43年に盛岡出身の建築家である横浜勉の設計により建てられた旧第九十銀行で、現在、国の重要文化財に指定されている。そこに、啄木と賢治の盛岡での青春時代が象徴展示されている。

啄木は明治19年、賢治は29年に生まれているので、年齢で10歳(盛岡中学では11年)の開きがある。この10年の位相の中に、盛岡の近代化への急速な歩みを見ることができる。

前述の旧第九十銀行に引き続き、旧盛岡銀行本店(前の岩手銀行中ノ橋支店)が明治44年に竣工した。この現存する二つの銀行に加え、旧安田銀行(現みずほ銀行)らが建ち並ぶ呉服町から紺屋町にかけての銀行群を、賢治は、文語詩「岩手公園」に「川と銀行木のみどりま

ちはしづかにたそがるゝ」と詠んだ。この銀行群は、啄木の青春時代には無かった建物である。

また、象徴的な例を挙げれば、「岩手公園」(現在の愛称は盛岡城跡公園)が10年の位相の中で大きく変化した場所である。

近代的な公園として整備され開園したのが明治39年。啄木は当時、渋民村で尋常高等小学校の代用教員をしていた。盛岡に出かけて、その近代的な公園に生まれ変わったかつての不來方城を訪ねたかどうか、についてははっきりわからないが、啄木は小説「葬列」に、次のように描写している。「(筆者注：啄木の学生時代からの)破天荒な変化と云ふべきは、電燈会社の建った事、女学生の靴を穿く様になつた事、中津川に臨んで洋食店の出来た事、荒れ果てた不來方城が、幾百年來の蔦衣(つたごころも)を脱ぎ捨てて、岩手公園とハイカラ化した事である」。

それが、著名な造園設計者である長岡安平の手により近代化されたばかりの「岩手公園」に、賢治は訪れ、前述の詩を残した。

まだまだ例を挙げられるが、要は、啄木と賢治が青春時代を過ごした盛岡は、近代化に向かう途上にあった、ということである。

次に、「盛岡における啄木の居住地」の表をあげる。学生時代に7か所、新婚時代に2か所、合計9か所に啄木は盛岡に住んだ。

しかし、これらの9か所には啄木の歌碑の類は一つもない。旧盛岡市内に約30か所、旧玉山村にも約30か所、現在の盛岡市には約60か所もの啄木碑があるが、残念ながら、啄木が住

んだところにはない、というのが現実だ。

モニュメントとしては3か所ある。表の1番の仙北町組町にあった工藤家跡がその一つ。JR仙北町駅から旧国道4号線に曲がった付近、現在歩道になっているところに、ステンレスの案内板が設置されている。また、8番の帷子小路が「啄木新婚の家」として、盛岡市内で唯一の啄木遺跡として現存している。もし歌碑を建てるなら、ここが盛岡市の所有であり適地であるので、ロータリークラブの何かの記念に、歌碑の建立を企画していただければありがたい。それに、9番の「小天地」発行の家の跡にも、観光案内板が建ってる。中津川に架かる富士見橋の近く、「啄木荘」という名前のアパートがあるところだ。

これらの啄木の居住地に加えて、賢治ゆかりの地をまとめた「盛岡 啄木・賢治『青春の記憶』探究地図」がある。文化地層研究会が発行したものだが、この地図に盛り込まれた啄木と賢治の情報はすべて、筆者が提供した。前は、書店でも売っていたが、現在は、石川啄木記念館だけでの販売となっている。価格は200円。記念館見学の折にでも、お買い求めいただければありがたい。

啄木が、「盛岡をどう捉えていたか」については、満20歳の時に渋民で書いた小説「葬列」に見ることができる。「盛岡は実に自分の第二の故郷なんだ。『美しい追憶の都』なんだ」「実に誰が見ても美しい日本の都会の一つには洩れぬ」「この美しい盛岡の、最も自分の気に入

別表

盛岡における啄木の居住地

	当時の住所・寄宿先	現住所表示	居住期間(定説)
学生時代	1. 仙北町組町四十四番戸 工藤常象方	仙北二丁目	1895(明治28).4~
	2. 大沢川原小路三十五番戸 海沼イエ方	開運橋通	1896(明治29).1あるいは2~
	3. 新築地三番地 海沼ツエ方	大沢川原三丁目	1896(明治29).2あるいは3~
	4. 帷子小路五番戸 田村叶方	中央通三丁目	1900(明治33).1.6~
	5. 長町八十番戸 田村叶方	長田町	1901(明治34).6.11~
	6. 四ツ家町二十七番地 田村叶方	本町通二丁目	1901(明治34).10.15~
	7. 仁王小路三十番戸 田村叶方	中央通二~三丁目	1901.11.25~1902(明治35).10
新婚	8. 帷子小路八番戸	中央通三丁目	1905(明治38).6.4~
	9. 加賀野第二地割久保田百六番地	加賀野一丁目	1905.6.25~1906(明治39).3

て見える時は、一日の中では夜、天候では雨、四季の中では秋である」。

また、啄木は評論「胃弱通信」の中で、「遠方より眺めたる盛岡と盛岡人」として、市政や特産品をはじめ、市民の心の持ち方に至るまで様々な提言を行っている。

「石川啄木と盛岡」における三つ目を述べる。啄木の代表的な歌集『一握の砂』は、五つの章に分けられ、現実的な非回想歌とかつての自分の生活を思い起こす回想歌が交互に編まれている。一首ずつの歌を鑑賞しても味わいがあるが、歌集全体を通して読めば、「啄木」という一人の人間の物語として、立ち上がって来るのが特徴だ。

その中で、「病のごと／思郷のこころ湧く日なり／目にあをぞらの煙かなしも」から始まる第二章の「煙一」に収められた47首の歌には、盛岡時代における思い出が詠み込まれている。

その冒頭歌「病のごと…」は、「病気のように故郷を恋い慕う心が湧く日である。目にうつる青空の煙が心にしみて悲しいことよ」（岩城之徳）と評積されるが、その歌碑が盛岡天満宮に建っている。全国で三番目、旧盛岡市では初めて昭和8年に建立された碑は、本殿から少し下がった高台にあり、しばらく文字が消えたり碑石が割れたりしていたが、3年ほど前に篤志家が寄進して改修された。

「己が名をほのかに呼びて／涙せし／十四の春にかへる術なし」の歌には、懐かしい少年の日の思い出として、後に妻となる堀合節子に対する初恋が詠み込まれている。数え14歳は、啄木が盛岡中学校（現盛岡一高）2年生に進級した明治32年のことである。

「不來方のお城の草に寝ころびて／空に吸はれし／十五の心」も、数え15歳の少年の頃を懐かしく思い出した歌である。「不來方のお城」とは、盛岡城であり、その城跡が「岩手公園」（現在の愛称は盛岡城跡公園）である。二の丸跡には、啄木の親友・金田一京助が揮毫した歌碑が建ち、観光の名所にもなっている。かつて

は、この歌碑のある場所から、岩手山を眺めることができたが、石垣前のビルにより、その眺望は失われた。

「学校の図書館の裏の秋の草／黄なる花咲きし／今も名知らず」。この歌は、「中学校の図書館の裏に、秋の草として黄色な花が咲いていたことよ、なんとという花だったか今もその名を知らないでいる」（岩城之徳）という意味だが、盛岡中学校の情景を詠っている。「黄なる花」とは、中津川の川原にもよく咲いている「みよこ草」だと思われる。

この盛岡中学校の図書館は現存している。盛岡中学が内丸から上田に移転した後、日本赤十字病院の薬品庫として使われ、さらに宮古市山口の慈眼寺境内で「寄生木（やどりぎ）記念館」として長らく使われていた。2年ほど前に、その現役を終えたが、解体して盛岡に戻され、盛岡の町家が多く残る鉾屋町の旧藤原家の中庭に復元された。今後、その図書館の活用が期待される。

「西風に／内丸大路の桜の葉／かさこそ散るを踏みてあそびき」。かつての盛岡中学校の隣が、盛岡地方裁判所である。この歌に詠み込まれた「桜」とは、樹齢400年とも言われる石割桜であると思われる。この裁判所では、啄木は委託金費消事件で呼び出され、検事の尋問を受けたことがある。

「近眼にて／おどけし歌をよみ出でし／茂雄の恋もかなしかりしか」。盛岡中学で1級下の友人である小林茂雄をモデルとして詠んだ。

筆者は、2012年11月にこの茂雄と啄木との交流を中心とした『啄木の親友 小林茂雄』を刊行。好評を博し増刷を行った上、平成24年度岩手県芸術選奨を受賞した。

そして、盛岡ロータリークラブで卓話を行わせていただいた日、3月28日（金）に、『啄木ふるさと人（びと）との交わり』を上梓した。盛岡のタウン誌「街もりおか」に連載した「啄木の交友録〈盛岡篇〉」をまとめたものだ。ご覧いただければ幸いです。

出席報告

会員数 / 70 名

出席数 / 44 名

出席率 / 64.71%

前々回修正出席率 / 75%

(誌面の都合上、〈出席報告〉をこの場所に配置しました)

例会報告

第35回例会  
平成26年3月28日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司会 平井 滋会長
  - ・ソング 手に手つないで
  - ・会長報告 平井 滋会長
  - ・入会祝 福井誠司君。
  - ・幹事報告 平野佳則幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡北R.C.= 4月23日(水)は、桜会開催のため18:30~「鈴徳」。  
4月30日(水)は、特別休会。
- 盛岡西R.C.= 4月17日(木)は、地区大会参加のため20日(日)地区大会会場。
- 盛岡南R.C.= 4月22日(火)は、桜会開催のため18:30~「鈴徳」。

【ニコニコBOX】

- ◆平野佳則君…「伊勢神宮参拝と南部氏ゆかりの地を訪ねて」の旅では、皆様にお世話になりました。ありがとうございます。伊勢神宮の外宮・内宮では、正宮の中で参

拝させていただきました。また外宮では、旧正殿を間近に拝見することも出来ました。翌日近江では、新羅善神堂や先祖の菩提寺である妙林寺にも行くことができ、自分自身のルーツを辿る旅となりました。地域活性化の視点で考えても、伊勢神宮のおかげ横丁、高島エリアのまちづくり、名古屋城の周辺設備整備など短時間の中に学ぶ要素が盛り沢山でありました。坂本宮司はじめ、一緒に旅行した皆様に大変お世話になりました。皆様に感謝申し上げニコニコします。

- ◆佐藤重昭君…①先週、坂本会員が団長の盛岡RC・桜山神社合同ツアーに参加させて頂きました。伊勢神宮外宮・内宮の参拝、南部家の祖「新羅三郎義光公」のお墓参り、村井会員、平野会員の菩提寺のある高島市訪問等々普段絶対に訪問できない場所に連れて行って頂きました。寒い中、コートも着ないで、頑張ってくれた坂本会員に心より感謝して。

②4月12日(土)~4月13日(日)仙北町エリアで恒例の鉈屋町の雛祭りイベントとは別に「岩手県林業経営者協会」主催の「森とひなまつり」イベントを同時開催します。当社の旧宅も修復も完了し5年ぶ

りにお雛様を飾って参加致します。会員の皆様もお時間がゆるせばお越しください。その後も1ヶ月位雛人形は飾りますので、当日お越しになれなかった会員様用の見学会も企画致します。改めてお知らせします。

- ◆平井 滋君…3月13日に盛岡市に「地元酒等(じもとしゅとう)で乾杯を推進する条例」が新たに制定されました。2012年暮に京都で「日本酒で乾杯」条例が制定以来、全国の自治体に拡大し、岩手県では初となりました。強制ではありませんが、盛岡の地酒で乾杯を皆様よろしくお祈りします。
- ◆古山明広君…3月21日から2泊3日のお伊勢さん参りでは、3日間大変楽しく過ごさせて頂きました。参拝、観光もすばらしかったです。琵琶湖ホテル、名古屋コーチンの料理など、夜の懇親会はどちらも大変楽しかったです。是非またこのような企画を期待しております。同行の皆様と坂本さんに感謝してニコニコします。

- メーキャップ  
盛岡西R.C.=吉田(幸)君。盛岡東=熊谷(祐)君。盛岡中央R.C.=川村(登)君。委員会=西島君。

伊勢神宮参拝と南部氏ゆかりの地を訪ねて

3月21日から23日まで伊勢神宮と南部家縁りの地を巡る旅(クラブ参加者28名)をして参りました。伊勢では普段は入られない場所で参拝し、旧社殿も拝観できました。おかげ横丁や神宮も人が多く、集合写真を撮る場所も無い程でした。また、南部家の祖先が元服した三井寺にある新羅善神堂とお墓をお詣りすることも叶いました。

その後盛岡藩お抱え商人のルーツでもあります滋賀県高島市に赴き、地元郷土史家のご案内で小野組跡地や高島商人の里の散策も行い、村井研一郎さん、平野佳則さんの先祖の菩提所で盛岡藩との関係の説明を受けて参りました。盛りだくさんのコース設定で、歩く距離も長かったのですが(一部山登り)体調を崩す方もなく無事に終える事ができました。

今回の旅は「神宮参拝・旧社殿参拝と南部家縁りの地を訪ねる」という目的を持った旅でありましたので、

「疲れたけれども意義のある旅であった。」と感じて頂ければ幸いです。

(文責:坂本広行)



岩手県神社庁盛岡支部崇敬者の皆様と共に

プログラムの  
お知らせ

・4月4日(金) ゲスト卓話 工藤昌代様(機ホップス 代表取締役)

「妄想と諦めない心」

●本号編集担当/大見山俊雄

●次号編集担当/高柳 一郎